

# 令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

国語科 3年生

## 1 日常の学習状況について

- (1) 授業では、目の前の課題に前向き取り組み、目標に向かって知識・技能を身に付けることに意欲的である。また、授業規律が整った中で仲間の発表をよく聞き、温かい評価をすることができ、既習事項を活用し、考え、表現する力も向上している。学習の仕方もこの3年間で身につけられた生徒が多いが、1年次以上に、学力の差ができています。
- (2) 漢字の小テスト、休み明けの漢字テスト、暗唱等に意欲的に取り組む生徒が2年次以上に多くなった。
- (3) 予習にあたる家庭学習の課題への取組が不十分なため、ノートへの書き写しに時間を割くことに終始し、自ら考える主体的な取組が滞りがちな生徒がいる。

## 2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (1) ワークシートや提出物に真面目に取り組むため、既習事項の問いに対する正答率は大変高いが、切り口を変えた問いへの正答率は低い。復習確認テスト（6月実施）でも初めて読む文章への苦手意識もあり、問いへの正答率が低かった。
- (2) 既習事項を活用する、思考力・判断力・表現力を向上させる学習をより充実させる必要がある。
- (3) 1年次より、定期考査でテストの振り返りをさせたことで、「解答の仕方（理由の答え方、問題の指示に当てはまる解答の書き方）」が向上した。

## 3 学力に関する状況

授業で提示した課題について真面目に取り組む生徒は、ノートに整理していくことで学びの確認ができ、また、まとめのプリント「積み上げ」や「過去問」での確認、繰り返し学習することで学びの定着を得ている。一方、応用問題、初めて読む文章などに対する読み取りが苦手な生徒が多い。読解のパターンを身につけ、また二百字作文に数多く挑戦することで書き方のルールを習得させる。思考力・判断力、表現力を伸ばしていく学習を繰り返し、論理的に話す力、書く力を主体的に向上させていけるようにする。

## 4 教科の課題

- (1) 学習面
  - ・文章を正確に読み取る力や、記述されていない内容を想像する力、自分の意見を的確に表現する力が不足している。
  - ・語彙を増やす学習が不足している。
  - ・家庭学習（宿題）の習慣が身につけていないため、予習（宿題）ができず、授業中にノートを取り切れていない生徒がいる。
- (2) 指導面
  - ・毎時間の目標・内容を明確にして見通しをもたせ、理解が深まる的確な発問を工夫する。
  - ・机間指導の中で、個別に指導できる時間を確保する。
  - ・生徒同士で「学び合い」のできる時間を活動に取り入れる。（少人数のグループ学

習。)

- ・体験的な学習や問題解決的な学習の機会を増やし、個の学びの上に、協働して課題解決ができる学習を工夫する。

## 5 授業改善について

### (1) 学習面

- ・学習の目標と内容を板書に明記することで、一人ひとりにきちんと把握させる。
- ・こまめな漢字の小テスト、またそれに向けての漢字練習、暗唱の学習に取り組ませる。特に学習意欲をもてない生徒が達成感を味わえるよう、個別にそれぞれに合った家庭学習の方法を具体的に伝え、評価する。
- ・「書く」ことに関しての課題に段階的に挑戦させる。
- ・語彙を増やす学習（意味調べ・短文づくり）を丁寧継続する。
- ・「長文読解」「入試問題」の教材等様々な文章に出会わせることで、読解力、論理的な思考力の向上を図る。

### (2) 指導面

- ・授業中にノートをとれない生徒に対して、ポイントを書き込んだ掲示物を準備し、学習の跡がわかるノート作りにつながるよう個別指導に力を入れる。
- ・授業の最初に漢字及び言語事項（慣用句・文法等）や暗唱に取り組ませることで努力の成果を実感させ、自信を付けさせる。
- ・提出物を早めに提示し、進捗状況を確認する。誤りのあった提出物の評価を返却し、やり直しができるようにする。
- ・文学的な文章に多く触れさせ、豊かな表現力を身につけられるようにする。
- ・読書活動を充実させるため、ブックトークを行う。（1学期に実施。）
- ・論理的な文章を書く力を高めるために数多くの200字の作文に取り組みせ、意欲を喚起する魅力的な表現活動を取り入れる。
- ・社会や世界に関心をもち、新聞やニュース等から情報を得て、自らの世界を広げさせる。（1分間日直スピーチの継続。）
- ・少人数での学習を効果的に取り入れ、書いた韻文や文章を互いに読み合うこと、考えたことを発表し合うこと、課題について話し合うこと、互いに助け合ながらより良いものを協力して作り上げることを通して、主体的に学び合い、豊かな考えを得る喜びを味わわせる。
- ・デジタル教科書、学習者用端末、書画カメラなど、ICTを効果的に使用し、より多くの情報を得ながら様々な方法で学習の幅を広げたり、深めたりできるように工夫する。

## 6 成果の確認

- ・单元ごとの個人評価、相互評価、自己の変容（成長）と次への目標を確認できているかの評価。
- ・ノートやワークシート、作品（作文）の評価。
- ・暗唱カードでの努力の成果の確認。
- ・観点別学習状況の評価の学期ごとの比較。
- ・定期テスト、小テスト、学力調査等の結果の考察。
- ・長期休業明けテストの実施と結果の考察。
- ・授業評価アンケート結果の考察。

## 1 日常の学習状況について

歴史的分野の学習に対する興味・関心が高く、授業に意欲的に取り組む生徒が多い。小テストなどにも真剣に励み、多くの生徒が基本的な知識・技能を身に付けているといえる。しかし、ワークシートや定期考査における思考を問う発問では、頭で考えていることを文章にしたりするのが苦手である生徒も多く、生徒間で大きな差が見られる。図表やグラフなどの資料を読み取り、社会的事象について説明する力を育む指導を心がける必要がある。

## 2 授業アンケートの結果について

7月に授業アンケートを実施し、以下の項目に対して「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「思わない」の4択で回答をする形式で行った。(以後、「あまり思わない」「思わない」は「他の割合」と併せて表記)

(1) 授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。

・「そう思う」：82.9%      ・「ややそう思う」：16.0%      ・他の割合：1.1%

(2) 授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。

・「そう思う」：84.0%      ・「ややそう思う」：15.4%      ・他の割合：0.6%

(3) 授業内容や指示、説明がわかりやすい。

・「そう思う」：84.0%      ・「ややそう思う」：15.4%      ・他の割合：0.6%

(4) 意欲的に取り組めるような授業になっている。

・「そう思う」：82.3%      ・「ややそう思う」：16.0%      ・他の割合：0.6%

(5) 板書やプリント、ICT機器の活用などが工夫され、理解が深まる。

・「そう思う」：88.0%      ・「ややそう思う」：11.4%      ・他の割合：0.6%

## 3 授業アンケートの結果をふまえた授業改善の計画

### (1) 指導

- ① 授業のねらいを理解していない生徒が多く見られる。導入を工夫し、本時の授業に対する興味・関心を高められるようにする。
- ② 難しい語句の意味や思考を問う発問に関する説明を理解しきれていない生徒がいるので、ICT機器等を上手に活用して生徒の理解を深め、思考力・判断力・表現力の育成につなげられるようにする。
- ③ 言語活動等を定期的に取り入れ、社会的事象に対する自身の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりすることで、深い学びにつなげ、主体的に学習に取り組める授業にする。

### (2) 評価

- ① 適宜アンケートを実施し、授業の満足度を理解した上で授業を実施する。
- ② 授業力の6要素である「使命感・熱意・感性」「児童・生徒理解」「統率力」「指導技術」「教材解釈、教材開発」「指導と評価の計画」の授業力分析シートを定期的に活用し、自己の授業を振り返ることで日々の授業づくりに生かせるようにする。

## 4 授業に関する状況

授業は、ワークシートとICT機器を活用しながら、単元に関する基礎的な事項を調べる活動を行って知識を整理させることと思考を問う問題を織り交ぜながら進めている。基礎基本となる知識・技能を定期的 to 実施する小テスト等で身に付け、その上で興味・関心をもてるような教材を提供し、主体的に授業に取り組む態度を養っている。語句などの知識を問う質問には多くの挙手や発言が見られるが、思考を問う問題になると挙手や発言がかなり少なくなる傾向がある。自身の考えに自信をもって取り組めるような指導を心がける必要がある。

## 5 教科の指導上の課題

### (1) 学習面

グラフや図などの資料を活用して社会的事象について考える力や、頭で考えたことを文章にできるようになる指導が必要である。

### (2) 指導面

- ① 毎時間活用しているワークシートに少しずつ慣れ始め、わずかではあるが、問い対して答えが曖昧でも記述をしようとする生徒が増えてきた。
- ② 単元見通しシートを活用することで、学習の目的をもって授業に取り組み、単元を貫く問いを意識して授業に励む生徒が増えた。
- ③ 個に応じた指導がまだまだ不十分であるので、机間指導をより丁寧に行う。

## 6 成果の確認

- (1) 定期考査において知識・技能の定着度を理解する。
- (2) 小テストを定期的 to 実施し、基礎的な知識・技能を少しずつ身に付けられるようにする。
- (3) 単元見通しシートやワークシートの記述を基に社会的事象に対してどのような考えをもち、それをどのように適切に表現しているのかを確認する。
- (4) 生徒の授業アンケートや授業力分析シートを有効に活用する。

# 令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

数学科 3年生

## 1 日常の学習状況について

3年生の数学の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- (1) 基礎的な四則計算が身に付いており、授業にも意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、分数や小数、累乗の混ざった応用の計算問題ではミスが目立っている。
- (2) 計算問題を解く力はあるが、文章題や工夫して解くような応用問題を苦手とする生徒が多い。  
授業では周りの人と相談し、考えさえる時間を設けているが、相談できず、一人で静かに考えこんでいる姿が見られる。
- (3) 「思考力・判断力・表現力」を必要とする問題では、解かずにあきらめてしまっている生徒もいるための正答率が低くなっている。応用力が身につけていない生徒が多い。

## 2 学力調査・中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 3年生で習った基本的な知識・技能は身につけているが、1・2年生で習ったことが身につけていない生徒が多い。
- (2) 1学期中間考査、期末考査では、思考力・判断力・表現力の得点が全体的に低く、応用力が身につけていない生徒が多い。

## 3 学力に関する状況

以上のことから本校の現3年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。基本の計算問題、特に整数の計算についてはできるが、分数、小数の計算や1年次の図形に関しての問題、2年次の一次関数、3年次の平方根の利用等で、考えて問題を解くことを苦手としている。また、文章題などの融合問題などの「思考力・判断力・表現力」を力が不足している生徒が多い。

## 4 教科の課題

### (1) 学習面

- ・授業に前向きで、意欲的に学習に取り組んでいる部分を良さも大切にする。
- ・文章題など考えて解く問題の解法について理解を高める必要がある。
- ・定期考査前の学習や長期休業中の学習教室を利用して、苦手になっている生徒の学力向上を図る。

### (2) 指導面

- ・個別指導では、ある程度理解に達するが、一斉指導での理解度が低い。
- ・単級の授業展開により、個々の理解度の差が激しく、授業の進度の調整が難しく、未定着のまま、授業が進んでいくことがある。

## 5 授業改善について

### (1) 学習面

- ・問題演習の充実

毎時間授業内で問題演習が必ずできるように時間を確保する。

- ・問題集の自主的な学習の習慣化の徹底

問題集の提出と定期テストを定例化し、何をすればよいのか等の目標をもった学習ができるように指導する。

- ・応用問題の充実

形式的に解ける問題だけではなく、文章題や1・2年次の学習内容を定期的に取り入れる。

- ・夏の学習教室の実施

補習教室を通して、休校中の学習内容や1・2年次の総復習をして学び直しをする。

- ・放課後・質問教室等の補習教室の充実

基礎計算が定着していない生徒、休校中の課題の理解不足生徒への、反復指導を行う。

### (2) 指導面

- ・授業では、解説を聞くだけではなく、近くの人と相談したり、自分で考えたりする時間を確保し、自力で解く習慣を身に付けさせる。

- ・反復練習によって、計算の基礎を身に付けさせる。

- ・補習教室によって、定着が不十分な生徒の学力を付け、復習テスト等を行うことで、理解度を確認出来るようにする。

- ・ICT機器などを活用し、生徒の興味・関心を伸ばすことを心がける。

## 6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

(1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較

(2) 中間考査、期末考査の結果

(3) 第2回確認テストの結果

(4) 数学授業のアンケート

# 令和5年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

理科 3年生

## 1 日常の学習状況について

課題に対し、観察・実験を行い、結果を基に課題解決し、日常生活との関連を考えながら学習していく授業に取り組ませている。

また、観察や実験に対してグループ内でプリントを見ながら取り組み、結果からグループ内で考察するように指示を出している。基礎的な知識を身につけている生徒は多く、中には事前に予習などをして実験の内容をよく理解し行っている生徒もいる。

提出物や宿題も多くの生徒が期限を守って取り組んでいる。ただ、提出できない生徒は限定されており、家庭との連携を深める必要性を感じている。

## 2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

理科のワークの内容と同じような問題でも、思考をともなう問題、数学的な文章問題については、正解率が低く、暗記が必要な知識に関する問題、日常生活との関わりに関する問題については正解率が高かった。

課題は、課題解決するための方法を考える力、何を問うているか読み取る力＝読解力、正確な知識を身につける力＝語彙力の3項目である。そのためには、課題解決のための方法を発問する授業、読解力の向上を目的とした授業展開を導入していく。また、基礎的な知識が身に付いていない生徒へのはたらかかけと、学習援助が必要であるため、協働学習の形態を取り入れていく。

## 3 理科の学力に関する状況

- (1) 多くの生徒が理科に関心をもち意欲的に取り組んでいる。協働学習の場面では、発問に対し積極的に取り組み意見を交換する生徒が多い。ただし、日常の生活体験と理科の学習内容が結びつくことに気付かない生徒は少なくなったが、そのしゅくみを理解できない生徒は多い。
- (2) 自然の事象に対し、その説明や理由を思考説明することが苦手な生徒が見られる。課題とその答えに丁寧に対応し、自己肯定感を高揚させるように対応していく。

## 4 教科の課題

- (1) 各単元の共通する課題は、生活体験を踏まえて事象・現象や手順の理由を考察、理解していくことが苦手である。
- (2) 分かりやすい説明や指示、取り組みやすい課題によって、一人一人が実験の予想や考察・理由など、「気付き」を探究できる場面を積極的に設定していくことが課題である。

## 5 授業改善について

- (1) 知識の定着が低い生徒が少なからずいるため、小テスト、学習カードを活用して知識の定着を図る。
- (2) 実験装置の取り扱い、実験操作時での説明及び定期考査に出題し、実験技術の向上を図る。
- (3) プリント・ワーク・定期考査を通し、文章を書いて説明する機会を増やし、論理的な思考を正確に表現できる読解力の向上を図る。

## 6 成果の確認

- (1) 授業の取り組み状況や実験レポートの内容を基に、事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。

- (2) 定期考査や実験のプリント等の成果で比較分析する。
- (3) 授業アンケートの結果を考慮し、思考力・判断力を向上させ、自己解決能力の養成に努める。

# 令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

音楽科 3年生

## 1 日常の学習状況について

3年生の音楽科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 授業への取り組みは意欲的で明るく前向きに取り組む姿勢が見られる。
- (2) 鑑賞の授業では、作曲家や楽曲の解説等を、視聴覚教材を活用して学習している。鑑賞の能力に関しては感じる力は柔軟で、素直に表現できているが文章力が乏しく気持ちを表現しきれない生徒がいる。
- (3) 新型コロナウイルス感染予防により、1学期に「アルトリコーダー」の授業が行えなくなったために「リズム練習」を行った。「リズム練習と表現」については、基礎的なリズムと発展的なリズムによって表現が深まった。

## 2 授業での生徒の様子を踏まえて

- (1) 授業評価アンケートの結果より、本時の目標やねらいをホワイトボードによつての提示を行っているが、より細かくわかりやすく説明を行う必要がある。また、鑑賞以外でのICT機器の使用を効果的に取り入れた授業に取り組む必要がある。

## 3 学力に関する状況

音楽科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 表現の工夫に関しては、意欲的に考えて工夫していく力を身に付けさせたい。「歌唱・合唱」の授業では音楽祭とタイアップさせ、パート練習や発声練習など、主体的に活動し、お互いを高め創意工夫していくことがこれからの目標となる。
- (2) 楽典・知識に関しては、実技に取り組みながら触れてはいるが、定着が難しい生徒もいる。定期考査前は、プリントやワークブックを使用して復習させ、朝学習に取り組ませることにより、学習内容の定着を図っている。
- (3) 定期考査では、音楽ワークを活用し、知識を深めることができる。テスト後も繰り返し学習に役立てることができる

## 4 教科の課題

### (1) 学習面

- ①「鑑賞」では音楽表現の共通性や固有性を自分なりに考え、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるような授業の進め方、教材やタブレット・ワークシートの使用等が必要である。
- ②「歌唱・合唱」は、発声・言葉の発音・身体の使い方等、また「器楽」では、身体の使い方等の創意工夫を生かし、曲にふさわしい表現ができるための技能を身につけさせる必要である。
- ③楽曲のもつ様々な音楽的特徴について思考・判断したことを「歌唱・合唱」や「器楽」で表現できるような指導の工夫が必要である。

## (2) 指導面

- ① 「鑑賞」の授業における「日本の伝統音楽」を親しみその良さを味わうことができ、「鑑賞」への意欲が高まった。
- ② 「歌唱・合唱」では技術を高め、正確な音高と曲想に合った表現力を作れるようにする。また、自分の思いをことばや文章、楽器で表現できるように指導していく。
- ③ 「リズム練習」と「アルトリコーダー」については、正確なリズムでの表現ができるように細やかな指導に取り組むようにする。

## 5 授業改善について

### (1) 学習面

- ① 自己表現のみにならず、グループ活動の実施・自己評価ができる資料により、フィードバックを通して音楽の表現能力を高めていく。
- ② 教室のスペースを有効的に活用できるような工夫する。(教材機器の利用) また、「鑑賞」のより多く学習者用端末を使用した授業への取り組みを考えていく。

### (2) 指導面

- ① 実際の授業の進み具合を基に、指導計画の見直しを図り、全領域{表現(歌唱・器楽・創作)鑑賞}にわたって無理のない指導計画を実施する。
- ② 特に「鑑賞」の授業ではホワイトボードやDVD等の視聴覚教材を多く活用して視覚的に解説する事によって理解を深めていく。

## 6 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」や「音楽授業の評価」など確認をして改善を行う。

# 令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 3年生

## 1 日常の学習状況について

- (1) 授業への取組は大半の生徒が意欲的にしっかりと行っている。
- (2) 構想での柔軟な発想が、作品に活かされていない状況がみられる。
- (3) 制作で、無難な発想、技法を選ぶ傾向がある。

## 2 授業での様子を踏まえて

課題に対して、真摯に向き合い取り組む姿勢が多く多くの生徒にみられる。疑問に対する質問も活発で、課題に向き合うことができる。発想構想を活かせる活動につなげたい。

## 3 学力に関する状況

- (1) 課題への取り組みは意欲的である。
- (2) 技法や用具について理解しているが、それらを工夫して発想や構想を深める生徒が少ない。

## 4 教科の課題

### (1) 学習面

- ① 柔軟な思考から発想を広げ、制作に取り組み、創意工夫する姿勢を高めていきたい。
- ② 自ら考えて、課題を解決する方法を導き出せる生徒が少ない。

### (2) 指導面

- ① 意欲的に質問をする生徒が多いが、発想が深まらず、作品制作に生かしきれない生徒が多い。
- ② 自分自身の作品制作に最適な用具を選択、活用できる技能を定着させたい。

## 5 授業改善について

### (1) 学習面

- ① テーマ設定を行い、どのような作品をつくるのかよく考えた上で作品制作を行う。また、構想の段階でどこに疑問や不安があるのかをワークシートにまとめさせる。
- ② 様々な技法を例に挙げ、柔軟な発想で制作ができるように指導を行う。
- ③ 制作・鑑賞などのポイントを整理し、自ら内容を深められる工夫をする。

### (2) 指導面

- ① 机間指導の中で教員が質問をし、自ら考えて制作する環境にさせる。
- ② 技法や制作手順などを、タブレットや実物投影機等の ICT 機器を用いて説明する。
- ③ 明確な評価規準の下、適切な評価が行われることを説明し、評価のポイントを理解させた上で授業を行う。

## 6 成果の確認

年度末に実施する授業評価アンケート、及び作品の評価により検討する。

# 令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

保健体育科 3年生

## 1 日常の学習状況について

- (1) 全体的に授業への参加状況は良く、体育委員を中心に準備運動を行うなど日頃の授業から積極的に取り組んでいる。
- (2) 社会環境や生活様式の変化に伴って、運動の機会の減少などによる基礎体力の低下が課題である。
- (3) 苦手な単元への取り組む意欲に、個人差がみられる。
- (4) 水泳授業においては、女子生徒の見学の割合が多く見られた。体調不良等の理由もあるが、それ以外の要素も考えられる。

## 2 体力調査・アンケート等の結果を踏まえて

- (1) ストレッチ体操や補強運動を正確に行い、柔軟性、筋パワーの強化を図る。
- (2) ICT 機器や映像資料などを活用し、ねらいや運動のポイントを明確にしながら、わかりやすい授業を実践する。

## 3 体力に関する状況

- (1) 全体的に、保健体育学習への興味関心は高く、積極的な態度で臨むことができる。
- (2) 運動に参加する意欲は見られるが、基礎体力が低く、怪我をする生徒がやや多く見受けられる。
- (3) 運動や健康・安全に関する知識や、自己管理能力が徐々に身に付いてきている。
- (4) 仲間と共に協力して運動に取り組む姿勢が出来てきている。

## 4 教科の課題

- (1) 学習面
  - ①日常生活の中での体を動かして人と競いあう機会が減少してきている。また、日頃からスポーツをしている生徒とそうでない生徒との間に運動体験の差が生まれてきている。
  - ②単元に応じて、安全面に配慮し、ねらいに準拠した指導を行う。
- (2) 指導面
  - ①運動が「好き・得意」な生徒が「嫌い・不得意」な生徒とともに教え合い、学び合える環境をつくる。
  - ②集団行動を重んじると同時に、安全への配慮を意識した指導体制を整える。

## 5 授業改善について

- (1) 学習面
  - ①運動に対する苦手意識をなくすと同時に、基礎体力と運動の基本的な技能の向上を目指す。
  - ②ペア・グループ学習を通して運動の比較、考察を行い、理解を深められるようにする。また集団で学びあう中で運動の基本的なルールやマナーを身に付けるとともに、協力してできるようになった成功体験が味わえるような授業をする。
  - ③学習カードを活用して、運動の苦手な生徒でも体育学習における成果を発揮できるようにする。
  - ④保健分野では「健康な生活と病気の予防」に重点に置き、生涯を通じて自らの健康や安全を管理する力を身に付ける。
- (2) 指導面
  - ①指導のねらいを明確にするとともに一人一人の達成状況を教員が把握し、スモールステップで生徒が課題解決に主体的に取り組めるようにする。
  - ②ペア・グループ学習、体ほぐし運動などを取り入れ、仲間と共に、積極的に学び合える環境をつくる。
  - ③集団行動を徹底して行い、ケガの防止だけでなく質の高い学習ができるようにする。
  - ④補強運動を強化するとともに、指示や準備・移動を工夫し、運動量を増やすよう努力する。

## 6 成果の確認

スポーツテストの結果を生かし総合的に体力を付けていく。

# 令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

技術・家庭科 3年生

## 1 日常の学習状況について

3年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 全体的に落ち着いて授業に取り組んでいるが、意欲的な発言はみられない。
- (2) グループワークでは班員で協力することができる。
- (3) プリント類は熱心に記入する生徒が多い。

## 2 期末考査等の結果を踏まえて

設問に対して適切な語句で解答できている生徒が多く、基礎的な知識はある程度定着していると感じた。思考力・判断力・表現力を問う問題では、授業の理解度により差が見られた。

## 3 学力に関する状況

1、2より、本校の現3年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 教科に対する学習意識が高く、全体的にある程度知識が身についている。
- (2) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が一定数いる。

## 4 教科の課題

### (1) 学習面

基礎知識がある程度定着しているため、思考力・判断力・表現力を高める発展的な発問が必要。

### (2) 指導面

サポートが必要な生徒への配慮が欠けている。また、生徒が身近に感じられるような授業展開ができていない。

## 5 授業改善について

### (1) 学習面

#### ① 日常生活に基づいた学習題材の導入

生活課題の発見と解決に向け、主体的に学ぶことのできる学習題材を取り入れ、思考力・判断力・表現力を身に付ける。

#### ② 振り返りの時間の確保

振り返りの際に発展的な発問を入れることで、より深い思考ができるようにする。

### (2) 指導面

#### ① 指導と評価の一体化

指導と評価を一体化するべく、評価の過程をできるだけ透明化し、どの部分を補えばよいか理解できるようにする。また、授業のねらいをはっきりとさせる。

#### ② 特別支援教育の視点に立った教材提示

特別な支援の必要な生徒など個別に配慮が必要な生徒が、授業を受ける際に理解できるように、学習内容の提示方法を工夫する。また、実習の際は手順を何度でも確認できるようにICTを活用する。

## 6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 期末考査の結果や作品

## 1 日常の学習状況について

- (1) 授業に向かう姿勢は概ね真面目で、音読練習、コミュニケーション活動にも意欲的に取り組んでいる生徒が多い。
- (2) 宿題として出た課題は授業までに取り組んで授業に臨んでいる生徒が多い。ライティングやスピーチ、プレゼンテーションの授業では、伝えたい内容を書きたいという意欲が高く、意欲的に取り組める。反面、わからない語句を調べたり、自分なりに内容を読み取ろうとしたりするような作業は億劫に感じる生徒が多く、授業で質問され、初めて自分がわかっていなかったことに気付く様子が見られる。

## 2 定期考査を踏まえて

- (1) 指示した範囲の文型についての問題は正答率が高くなっている。
- (2) 初めて読む英語長文については読解の速度に個人差があり、生徒の苦手意識も高い。
- (3) 簡単な英語を使って自分のことについて短い文を作ることは比較的できている。

## 3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能
  - ・基本的な文を読む、書く、話す、また聞き取ることはだいたいできる。
- (2) 思考・判断・表現
  - ・新出表現や文法を用いたコミュニケーション活動は活発に行える。
  - ・話題を広げるために、既習表現・文型を加えることには個人差があり、以前できたことを難しいと感じている生徒もいる。
  - ・長めの英文から必要な情報を聞き取ったりすることができるが、長文読解については目にした英語の量によって、初めからあきらめてしまう生徒もいる。
  - ・英語でのスピーチやプレゼンテーションにはあまり抵抗なく取り組んでいる。

## 4 教科の課題

- (1) 学習面
  - ・与えられた課題についてはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが、わからない、あるいは忘れてしまった語彙・表現をそのままにしている生徒も多い。
  - ・現在学習していることについてはよくできているが、反復練習が少なく忘れてしまうため、使用できる表現・語彙がなかなか増えていかない。
  - ・スピーチやプレゼンテーションの原稿作成時に、既習の表現を使わずに日本語の文法に英単語を当てはめようとする生徒がいる。あるいは、インターネットの翻訳機能を使ってそのまま書いてしまう生徒が、どうしてそうなるのかを自分で理解していない。
  - ・教科書以外の英文に触れる活動が少ない。

## (2) 指導面

- ・ 4 技能の活動をバランスよく配した授業の確立。
- ・ デジタル教科書以外の ICT の活用。
- ・ 個別指導の時間確保。

## 5 授業改善の計画

### (1) 学習面

- ・ 家庭学習時にわからない語彙・語法について自ら調べる習慣をつけさせる。翌授業での発問や生徒からの質問を促すことで、自ら学ぶ意欲を喚起していく。
- ・ 三年間の既習事項を、ワークシートや問題集を用いて復習させていく他、授業の中でも繰り返し既習事項の確認をし、使える表現を増やしていく。
- ・ 英作文の機会を増やす。

### (2) 指導面

- ・ ペア・グループ・クラス全体でのコミュニケーション活動の行い方を定型化し、短時間で素早く、できるだけ多くの回数実施していく。
- ・ タブレット活用場面を作る。
- ・ 小テスト、夏休み学習教室、放課後質問教室の利用。

## 6 計画の評価方法

- (1) 定期考査、観点別学習状況の評価の学期ごとの比較。
- (2) CAN-DO リストを考察したうえでの評価。
- (3) 学期終わりに授業に関するアンケートを実施し、生徒の達成感を考察。

## 1 日常の学習状況について

道徳の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- (1) 年間指導計画に沿って、学級によらず同じ内容項目、同じ題材で教科書を利用して指導している。  
扱う題材にもよるが、小グループでの意見交換の機会を利用して、一人一人の考えや思いが発表できるようにしているが、自分の考えを述べることを難しく感じている生徒は少なくない。  
また発表された内容に対して、対立する意見はもちろん、共感できる気持ちでさえ表現できない生徒も多い。多感な時期にある「道徳授業」の難しさを常を感じる。
- (2) 本校のこれまでの調査や研究からは、自己肯定感をもてない生徒が多い傾向にある。
- (3) 「考え、議論する」授業に結びつけていくために、題材に触れる、自分の考えをまとめる、小グループで意見交換をする。ホワイトボードを活用し各グループの発表から他者の考えに触れる、発表を通して感じたことを再度まとめる。という授業スタイルの定着を図っている。
- (4) 振り返りに使用するワークシートに、理想とする考えや答えを記述する生徒が多い。自分の思いを素直に書いているかどうかはわかりにくい。

## 2 日頃の学校生活の様子を踏まえて

- (1) 規範意識を高める、人権感覚を磨く、社会性を身につける、反省を生かした学習や生活を心がけるなど、徳目の理解はできていても、実際の生活の様々な場面で、学習の成果が生かされているとはいえない。
- (2) 「主体的に考え、議論する」授業を通して、相互理解を深めていくこと、様々な感じ方や考え方があることを理解できるようにしたい。

## 3 教科の課題

- (1) 学習面
  - ・教科書を活用し、学習指導要領に沿って確実に指導を継続できているが、学校行事等で計画通りに進行できていないときがある。
  - ・グループ学習の意見交換により、個人の学習活動の評価と他者の考え方の情報共有ができています。またポートフォリオを使用することで個人の考えの変容をつかみやすくなった。
- (2) 指導面
  - ・指導案を参考に、発問の内容、生徒意見の引き上げ方、終末の締めくくり方などの指導力、実践力の向上。

## 4 授業改善について

- (1) 学習面
  - ・教科書の題材によっては視聴覚教材を取り入れて、生徒が学習内容を身近に感じられるよう工夫をする。
  - ・グループ活動での一人一人の学習活動も記録できるようなグループ会議のワークシート（ポートフォリオ）を作成する。また、振り返りに利用するワークシートが主発問に対しての感じ方や考え方が明確になるような設問にする。
- (2) 指導面
  - ・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。

## 5 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 学習毎の「ワークシート」の分析、学期末の振り返り「学期の反省」の記述内容。
- (2) 学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。